

前回の科学技術部会（平成 22 年 2 月 18 日開催）におけるご意見等

【厚生労働科学研究の性格】

- 厚生労働省で支援すべき研究は、ミッションオリエンテッドの出口、現場に近い研究であることで意見は共通しているが、基礎研究については様々な意見がある。ライフサイエンスを基盤とするいろいろな研究のみならず、実際の医療の現場に基づくような基礎研究が重要との認識が広がると良い。
- 良い研究成果が得られる研究費の在り方、クリティカルな研究、メタ研究のようなものが少ない。場合によっては、競争的研究費より目的等を指定しない基盤的な研究費を配分したほうが良い研究成果が得られる可能性もある。
- 大学等においては基盤的研究経費が大きく減少している。基盤的研究費は廃止し、全部競争的研究費にするほうが良いのかどうかは判断できない。

【評価】

- 毎年のように詳細な評価を行った方がいいのかどうかは検証された仮説ではない。むしろ、評価しない方が良い研究成果がでるかもしれない。総合科学技術会議等で広く議論いただければ良いのではないか。

【産業界との連携】

- アカデミアや公的研究機関の基盤を整備し体力をつけ、オリジナリティや研究者独自の発想をしっかりと持たないと、産業界との連携はうまくいかない。役割分担や強みを優遇しシナジーがでるような共同研究を行うべきである。

【予算】

- 現在のように厳しい経済状況下では、予算総額の増減の議論はすべきではない。増額、減額した分野について政策と併せた説明が必要であり、その上で、予算配分について議論すべき。

【総合科学技術会議の動き等】

- 総合科学技術会議において、第 4 期基本計画に向けての議論がなされている。応用研究・出口に近い、社会に成果が還元される研究、産業界ですぐ利用できる成果を求めることは当然だが、それだけでは研究成果の種がなくなると多くの人が気づいている。人材育成も含め「基礎体力」を議論する方向にある。
- 新成長戦略のなかで「ライフイノベーション」という言葉を使って、特に人間の健康が明記されたことは大変良いことである。厚生労働省としては、良いチャンスととらえ、「アクション・プラン」を作る中で必要な提案していくべき。